



# ピアニスト 舘野 泉の 心に染み入る音世界

ここ医学会館で、トーク&ミニコンサートを開催します。

2024年1月26日(金) ●開場/18:30～

●演奏会/19:00～20:00 ●懇親会/20:00～21:00

曲目  
(予定)

ピアノ  
ソロ曲

\*バッハ・ブラームス：シャコンヌ  
\*間宮若生：夜山で鳴く鳥の声  
\*谷川寛作：作品集より、他

デュオ曲

\*久保 禎：  
「5つの風景画」より

## 舘野 泉 Izumi Tateno (Piano)

クラシック界のレジェンド、88歳ピアニスト。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ、不動の地位を築いた。人間味に溢れ、豊かな叙情をたたえる演奏は、世界中の幅広い層の聴衆から熱い支持を得て、深く愛され続ける。ピュアで透明な旋律を紡ぎ出す、この孤高の鍵盤詩人は、2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。尽きることのない情熱を、一層音楽の探求に傾け、独自のジャンルを切り開いた。“舘野泉の左手”のために捧げられた作品は、10ヶ国の作曲家により、80曲にも及ぶ。命の水脈を辿るように取り組んだ作品は、拓いたジャンルをも飛び越え、ただそこにある音楽だけが聴くものに忘れがたい刻印を残す。もはや「左手」のこだわりなど必要ない、身体を超える境地に至った「真の巨匠」の風格は、揺るぎない信念とひたむきな姿がもたらす、最大の魅力である。

オフィシャル・ホームページ：<https://www.izumi-tateno.com/>



ヤンネ舘野 Janne Tateno (Violin)

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。ヘルシンキ音楽院にてシルッカ・クーラ、オルガ・パルホメンコ、シカゴ芸術音楽学院にて森悠子の各氏に師事。11、22年東京文化会館にてリサイタルを行う。15年ヘルシンキにてW.ケンプのヴァイオリンコンチェルトを演奏。20年シベリウスコンチェルトを山形交響楽団と共演。21～22年ピアニスト相馬泉美氏と共にベートーヴェンのヴァイオリンソナタ全曲演奏会を行う。日本各地にて室内楽、オーケストラ奏者、ソリストとして活躍。現在ヘルシンキを拠点とするラ・テンペスタ室内管弦楽団のコンサートマスター、音楽監督を務める他、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子主宰長岡京室内アンサンブルのメンバーとしても活動。またバロックヴァイオリン演奏、アルゼンチンタンゴ演奏、コンサートのプロデュースなど幅広い活動を展開。18年ソロCD『Janne Plays Sibelius』(レコード芸術準特選)、21年『Monologo via Corda ～独絃哀歌』(レコード芸術準特選)リリース。 ホームページ：[jannetateno.com](http://jannetateno.com)

© 武藤 章

## ●会場：お茶の水医学会館9F 大会議室

対象者：同窓会員、会員家族、大学関係者、本学学生

・定員：60名 ※定員になり次第受付終了

・会費：2,000円

※19:00以降の入場はお断りしております、ご了承ください。

※曲目は変更ができる場合もございます。また、曲順は当日のプログラムでご紹介いたします。

※懇親会は菓子類・ソフトドリンクをご用意しています。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては開催を中止させていただく場合もございます。

お申込み  
お問合せ先

主催：一般社団法人 東京医科歯科大学医科同窓会 (イベント企画委員会)  
TEL：03-5689-2228 FAX：03-5689-2229 E-mail：ikadoso@ikadoso-tmdu.jp  
〒113-0034 文京区湯島1-5-34 お茶の水医学会館9F ★詳細はHPをご覧ください

## 申込方法

HPお申込みフォーム・FAXの  
いずれかの方法でご連絡ください。

[https://ochanomizukai.gr.jp/  
page/event.html](https://ochanomizukai.gr.jp/page/event.html)

FAX：03-5689-2229



# 左手の文庫

2002年の1月、フィンランドのタンペレ市でのリサイタルが終わり、聴衆にお辞儀をして数歩歩いたところでステージ上に崩れ落ちました。脳溢血でした。出血部がメスを入れられぬ部分であったため、自然治療を待つほかはないといわれました。右半身不随となり、リハビリに努めたものの、一度破壊された神経組織は元には戻りません。音楽に見放されたと思う日々は辛いものでした。

そんな私に転機が訪れました。長男がブリッジ作曲「3つのインプロヴィゼーション」の楽譜を見つけてくれたのです。第一次世界大戦で右腕を失った友人のピアニストのために書いた作品です。その作品を弾いたとき、氷が割れたのです。蒼い大海原が目前に現れました。水面がうねり、漂い、爆ぜて飛沫をあげているようでした。自分が閉じ込められていた厚い氷が溶けて流れ去るのが分かりました。

音楽をするのに両手であろうと片手であろうと関係ない。左手だけで十分な表現が出来る。なにひとつ不足はない。そのことをしっかりと納得したのです。

2004年の5月に東京、大阪、札幌、仙台、福岡などで演奏会を開き、ステージに復帰しました。“左手のピアニスト”としてです。でも、私には左手だけで弾いているという認識は最初からありませんでした。皆さんに聴いていただいているのは、音楽そのものなのです。左手というのは、飽くまでも手段、方法にすぎません。

そうはいつでも、左手のための作品が質、量ともに決定的に不足していたのは事実です。そこで、演奏家として心血を注ぎ、聴衆とともに生甲斐を感じられる作品を、ジャンルを問わず委嘱して、作品の枠を広げてゆきたいという思いが募りました。新しい作品ができると同時に、演奏の機会をつくること、楽譜を刊行することにより、いっそう広い層にわたるように努力してゆきたいと思うのです。

65年もピアノを弾いてきて、これほどまでに無心に音楽ができるなんて想いもしませんでした。弾けるということがひたすら嬉しくて幸せでただただ夢中でできましたが、最近、演奏会の楽屋には年輩の方に限らず、20代30代の若い人たちが悩みをもって訪ねてきます。原因不明の病で、右手が突然動かなくなってしまった才能ある演奏家や音大を目指している高校生が、左手の作品を探していると相談にきたり、左手だけでは受験者として認めてもらえないということをお話してくれました。右手の自由を失い深刻な悩みをもつ若い世代にとって、私に何かできることがあれば、力になりたいと痛感しました。

私を病の暗い深い溝から導いてくれたのは、音楽でした。何十年も前にその時誰かのために書かれた左手の音楽であったのです。音楽を愛する人には、いつの時代もどんなことがあっても、音楽を心の糧に活躍してほしいと願っています。

「左手の文庫」は、そこからたくましい想像力が生まれ、自由な創造と可能性が広がってゆけばよいと願ってつけました。この活動にご賛同いただきご支援頂けましたら幸いです。

館野 泉

**設立目的** ● 左手のための委嘱作品を充実させることを第一の目的とします。館野泉を通して、文化・社会貢献を担うものであり、将来は館野泉の意思により、ハンデを持つ音楽家の支援に役立てることを目指しています。

**募金要項** ● 口座名：左手の文庫募金 代表 館野 泉  
● 銀行：三菱東京UFJ銀行  
● 支店名：渋谷明治通支店  
● 口座種別：普通  
● 口座番号：3440111

**一口の金額** ● 個人は金額を定めず。  
企業・団体は、一口1万円  
\*領収書発行は下記事務局へ  
ご依頼下さい。

**事務局：館野泉 左手の文庫（募金）**

● 〒150-0072 東京都渋谷区渋谷2-1-6 ジャパン・アーツ内  
● TEL：03-3797-7698（土・日・祝日を除く） FAX：03-3499-8102